



株式会社Yume Cloud Japan

山形大学共同開発
スタートアップ企業

代表者	代表取締役 吉田 大輔
住所	〒992-0119 山形県米沢市アルカディア1-808-46 山形大学有機材料システム事業創出センター内
ウェブサイト	https://www.yume-cloud.co.jp/
設立	2019年1月31日
資本金	74,972,500円（2023年1月1日現在）

事業概要

Yume Cloud Japanはオンラインによってセルフコンディショニング術を身につけ、改善状況を可視化するマインドスケールは提供しています。

弊社が提供する研修等を通じて、実践し測定して改善を体感する事で、生体リズムと自律神経のバランスを整え、さらに脳の疲労度を少なくすることで、ストレスの軽減やパフォーマンスを発揮しやすくします。

- ①メンタルの不調に早く気づき、自ら改善できる。脳ストレスを減らし仕事の効率化や集中力を高める。
- ②ON とOFF のメリハリのある生活を送ることができる。乱れがちな生活のリズムを整えることができる。
- ③ストレスコーピングを身につける事ができる。活力が出る。パフォーマンスを発揮しやすくなる。

等の効果について実績があります。

強み・アピールポイント

通常のストレス測定とは異なり、自己申告だけではなく、蓄積された21万のバイタルデータ（脈波、感情、声）との関連性から、自律神経や脳疲労などの生体バランスを科学的に分析。専門カウンセラーによる対処法に関するアドバイスも受けることが可能で、改善するための対処スキルを身につけるまで一気通貫でサポートします。短期研修プログラムを通じて、従業員の方が短期的にストレスコーピングを学習。そして学習効果を測定して可視化することで成長実感が持てます。また、労働安全衛生法遵守のセルフケア学習ですので、人事部の方の手間にならず提供が可能です。

マッチングニーズ

健康経営に積極的に取り組まれている企業様、いろいろなストレスプログラムを試されて、効果が出ないという企業様に勧めしています。運動、保険、食品、睡眠、運輸、等に関係する企業様との連携を進めています。

登壇者プロフィール

富士通株式会社に入社後、半導体部門にて、ゼロから中国・インドを含むアジアビジネスの開拓を行う。香港・シンガポールに子会社を設立し、アジアビジネスを500億円規模に拡大。2000年に米国シリコンバレーに転居し富士通の数多くの新規ビジネスを開拓。2014年にYume Cloud Incを設立。

2019年に、山形大学の招致により、株式会社Yume Cloud Japanを設立。山形大学や東北大学と共に、ストレスの可視化についての研究を開始。音声・脈波等の生体データと、本人の自覚、臨床心理士等の専門カウンセラーによるアドバイスを行う事で、科学的なストレス分析と改善までの一貫したサポートを可能にする「マインドスケール」サービスを展開中。



代表取締役
吉田 大輔

エースバイオアナリシス株式会社



代表者	代表取締役 志村 清仁
住所	〒960-8055 福島県福島市野田町5-6-48-402
ウェブサイト	https://aceba.jp/
設立	2018年12月3日
資本金	300万円

事業概要

生物から取り出した特定のタンパク質の遺伝子を培養細胞に入れて作らせたタンパク質をリコンビナントタンパク質と呼びます。リコンビナントタンパク質はホルモンや抗体医薬として使われています。リコンビナントタンパク質の開発・製造には、タンパク質の分析技術が不可欠ですが、当社の代表を務める志村は等電点電気泳動の原理に基づいてキャピラリー（細管）中で分離された試料を走査検出することで、極めて優れた分析技術を完成しました。その成果を元に、弊社は世界中のリコンビナントタンパク質の利用と研究の更なる発展に貢献します。

強み・アピールポイント

弊社のキャピラリー等電点電気泳動装置は今までにない画期的な設計と機構を持っています。また、構造が簡素なため、他社の装置に価格面で大きなアドバンテージがあります。さらに、抗体カラムを分離用キャピラリーに結合することで、微量の生体試料に含まれる特定のタンパク質を濃縮、精製した後に直接その全量を等電点電気泳動で分析できます（日米特許）。この技術はエリスロポエチンのドーピング検査法への応用を目指しています。また将来的には、新たなバイオマーカーの開発が期待されます。

マッチングニーズ

1. 市販装置の製造・販売に乗り出してくれる企業様：製造に必要な技術的要求項目は試作機を用いて十分に収集してきました。製造技術をお持ちで、新製品を世界に向けて販売していこうという心意気をお持ちの企業様との協業を希望しています。
2. 業務拡大を応援して下さる投資家様：当社はタンパク質産業の基盤技術として、タンパク質分析に関わる技術と装置を斬新なアイデアに基づいて開発していきます。最初の製品として、極めて競争力の高い走査型キャピラリー等電点電気泳動装置を世界市場に投入することを目指しています。

登壇者プロフィール

山形大学理学部化学科から北海道大学薬学研究科に進学。帝京大学薬学部にて助手、講師、助教授（その間 BostonのNortheastern 大学博士研究員）。東大工学部にて客員准教授。福島県立医科大学にて教授（化学 2019年退職）。2018年にエースバイオアナリシス株式会社設立。一貫してタンパク質の分離分析法、とくにアフィニティー技術と電気泳動法を組み合わせた分離法の開発に携わる。1997年 日本電気泳動学会 児玉賞（学会賞）、2019年 日本分析化学会電気泳動分析研究懇談会 寺部 茂 賞（懇談会賞）受賞。



代表取締役
志村 清仁



appcycle株式会社

東北大学発・弘前大学支援
スタートアップ企業

代表者	代表取締役社長 藤巻 圭
住所	〒038-0015 青森県青森市千刈4-2-4
ウェブサイト	https://appcycle.jp/
設立	2022年5月26日
資本金	200万円

事業概要

エシカルレザー【RINGO-TEX】の企画・製造・販売

appcycleは2022年に青森市に創業した、大学発のバイオベンチャーです。

青森は日本一のりんご県ですが、地域・産業課題である廃棄りんごを原料とし、さまざまな製品をうみだしています。そのなかでも主力製品はエシカルレザーで、創業から4か月でANAに採用いただき、1年でライトオンに採用いただきました。

現在は、様々な上場会社や商社と製品企画、開発強化を行っており、6期でIPOを目指しています。

私たちの売り上げの一部はりんご産業に還元され、次の100年を持続可能な農業にするために使用されます。

強み・アピールポイント

創業から1年8か月ですが、上場会社基準を2つクリアしている製品が製造できていることです。

また、今後は世界特許取得のために新製品の開発を行っており、プロトタイプの実証に成功しています。

中長期の視点では、りんごを原料としたバイオ素材の開発を行っており、すでに特許取得準備に入っているものが2つあります。

有機物は、上場会社が敬遠する不安定なものです。安定化させることで誰もできなかった様々なappcycle独自の製品開発ができることがわかっています。

マッチングニーズ

- ・RINGO-TEXと一緒に販売いただける代理店、購入いただける企業様
- ・RINGO-TEXの製品強化、開発強化と一緒にやっていただける企業様
- ・投資家の方々（今年中に2億円調達目標）

登壇者プロフィール

美容・医療・化粧品業界を経てappcycle創業。

美容では、人や地域とのふれあいを学び、医療では産業構造を学び、化粧品ではサプライチェーンとバリューチェーンを学びました。

そのような経験をもとに、青森の地方創生と、東証プライムへのIPOを目指しています。



代表取締役社長
藤巻 圭



サウンドウェーブイノベーション株式会社

東北大学発
スタートアップ企業

代表者	代表取締役社長 加藤 肇
住所	〒981-0945 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-6-40 T-Biz(東北大学連携ビジネスインキュベータ)205号室
ウェブサイト	https://sw-innovation.com/
設立	2020年4月1日
資本金	414,962,500円

事業概要

低出力パルス波超音波技術を用いた微小循環器不全に対する治療用医療機器の開発を通してアンメットニーズを充足する革新的な治療への取り組みを行っている。

現在は薬事申請に向けた最終試験である検証的試験を昨年9月より開始したところで、同試験は2026年末まで実施予定。その後薬事申請、保険収載を経て、2028年より販売開始の予定。

2027年以降にはアルツハイマー病と同様にアンメットニーズの高い拡張型心不全や重症狭心症といった心臓疾患向けの医療機器の開発も進める。

強み・アピールポイント

アルツハイマー病は治らないという現状を覆し、弊社が開発中の治療機器の探索的治験で認知機能が向上するという結果が出ている。またその作用機序も明らかにしていると同時に、低出力パルス波超音波の効果的な照射方法についても長年の研究成果として明らかにしており、日本並びに米国にて特許を取得済み。

2022年に早期アルツハイマー病に対する探索的治験を完了したところで、その成果に注目した厚生労働省より同年9月に先駆的医療機器指定第一号を受ける。

当該技術は微小循環器不全全般に対して効果が期待できるため、アルツハイマー病のみならず、アンメットニーズの高い心臓疾患、腎臓疾患用治療機器としても展開する予定。

マッチングニーズ

資金調達：検証的試験実施の資金調達

協業：製造、販売、サービス展開等様々な協業パートナー

登壇者プロフィール

システム開発大手の株式会社CACに29年間在籍し、その後、CRO企業の株式会社CACクロア代表取締役社長、株式会社EPクロア取締役副社長などを歴任し、2023年4月より当社代表取締役社長。



代表取締役社長
加藤 肇

株式会社リピドームラボ



LIPIDOME LAB

代表者	代表取締役 中西 広樹
住所	〒010-0825 秋田県秋田市柳田字糠塚1番地2
ウェブサイト	https://lipidome.jp/
設立	2018年12月3日
資本金	850万円

事業概要

リピドームの価値がモノの価値を変える社会を実現する

すべての生物がもつ機能性物質”脂質”の解析技術から脂質を理解、コントロールすることでヒトの健康指標や機能性製品の研究、開発、支援をしています。脂質研究のソリューション事業における分析プラットフォームが整ったことで、それを活用した商品開発事業も開始し、新しい「脂質市場」の創出を目指しています。

強み・アピールポイント

ライフサイエンス研究分野においてゲノムやタンパク質などの受託分析サービスを事業化している民間企業は多く存在しますが、代謝物である脂質の分析技術を有し、受託分析サービスを実施している企業は指折り数える程度です。脂質は共存する分子ごとに存在量と物性が大きく異なります。そのため、試料調製方法より得られるデータの質が左右されます。ゲノム解析やタンパク質解析などの既存技術に比べ、脂質解析では試料調製のコントロールこそが至難であり、これまで一般化されていない要因となっております。当社の強みは、脂質の取り扱いに長けた技術者が多数在職していることです。そのため、他社よりも顧客のニーズにこたえた特色あるサービス提供が可能です。

マッチングニーズ

“脂質の可能性に挑戦する”をコンセプトに、研究開発・商品開発などの取組みを推進し、新しい「脂質市場」の創出を目指しています。新しい価値を創造・共有するパートナーを募集しています。具体的には共同研究・共同開発パートナー、資金・経営支援パートナーを希望します。

登壇者プロフィール

2009年東京大学大学院医学系研究科特任助教、2010年秋田大学生体情報研究センター助教を経て、2018年12月株式会社リピドームラボ起業、2020年から秋田大学医学部客員准教授と国立国際医療研究センター特任研究員を兼任し、2022年からは現職のみに専念。「リピドームの価値がモノの価値をかえる」社会の実現を目指す。薬学博士。

代表取締役
中西 広樹



株式会社東北医工
Tohoku Medical Systems Co., Ltd

株式会社東北医工

岩手大学支援
スタートアップ企業

代表者	代表取締役 大関 一陽
住所	〒002-0857 岩手県盛岡市北飯岡2丁目4-23 ヘルステック・イノベーション・ハブ 101
ウェブサイト	https://tohoku-ms.com/
設立	2022年5月26日
資本金	2300万（資本準備金含む）

事業概要

テクノロジーで人と医療の架け橋になる。私たち「株式会社東北医工」は脳卒中リハビリロボットをはじめとする医療機器開発に取り組んでいます。

弊社ではこれまで培ったロボティクス技術を活用し、岩手大学をはじめとする研究機関との産学連携を推進しながら、療法士による徒手的なリハビリテーションの一部を代替える医療機器の開発に挑戦します。

強み・アピールポイント

脳卒中の患者を対象とした手指のリハビリロボットは、下肢用と比較して世界的に製品が少なく、患者にとっては治療機会の喪失、治療を行う療法士にとっては負担の増大が大きな課題となっています。弊社では今まで自動車分野等で培ったロボティクス技術を活用し10年前から開発に取り組んで参りましたが、今年2024年度前半の量産化と販売開始を目指しています。

手指のリハビリ装置としては、まず岩手大学と共同で出願した国内特許が平成28年に成立しており、高い新規性を有しています。さらに派生特許を岩手大学・東北大学と共に、国内はもとより海外にも共同出願中です。また保有しているロボティクス技術をベースに、脳卒中リハビリロボットの他にもリハビリ分野を中心とした機器の開発や、大学を始めとする各研究機関向けの試験・評価装置の試作・開発・製造を手掛けています。

マッチングニーズ

弊社で開発中の脳卒中リハビリロボットは、2024年2月の時点で開発を終了し医療機器の承認申請中です（クラスⅡ管理医療機器）。これらのリハビリ機器分野に興味がある事業会社さんとのマッチングを希望します。2024年度は国内での販売開始と並行し、海外展開の調査を開始予定です。

登壇者プロフィール

岩手大学工学部電子工学科卒業後、株式会社アドテックシステムサイエンスに入社。同社にてマイクロコンピュータを用いた計測・制御系組込みシステムのハードウェア開発に従事。2009年同社から分離独立し株式会社ピーアンドエーテクノロジーズ設立。同社取締役役に就任し車載ネットワーク関連製品や医療機器の開発に従事。2022年5月リハビリ分野を中心とした医療機器の開発・製造・販売を目的に「株式会社東北医工」を設立し代表取締役に就任。



代表取締役
大関 一陽